

学年の協力体制をつくり、生徒の喫煙を改善に導いた事例

### 1 はじめに

中学校2年生のA男は、自宅や友人宅で隠れて喫煙を繰り返していた。その延長で学校でも喫煙し、その喫煙が発覚して指導援助が開始された。本事例は、指導援助の過程で集団による喫煙がわかったので、生徒指導主事を中心とした臨時的校内組織がつけられ、問題行動の改善を図った事例である。

### 2 問題の概要

- 夏休み明けの9月初旬、清掃中に男子便所からたばこの吸い殻が見つかる。数日間の現場の観察や生徒の情報からA男の喫煙が発覚する。
- A男らは、夏休み中にB夫宅（母屋から離れた部屋）に集まり、C雄も含めた三人で喫煙を繰り返していた。（A男、B夫、C雄すべて第2学年）
- A男の喫煙は、小学校のときから始まったもので、喫煙歴は4年に及ぶ。祖父のたばこをいたずら半分喫煙したことがきっかけである。
- 夏休み中、A男の自宅での喫煙が彼と交友のあるB夫、C雄らに広まり、夏休み以降、学校でも喫煙が続いたことが明らかになった。

### 3 A男のプロフィール

#### (1) 家庭環境

<祖父>・ 毎晩晩酌し、アルコール

(67歳) が入ると粗暴になる。

<祖母>・ 内職をしながら、A男ら

(65歳) 兄弟姉妹の面倒をみている。

・ A男らには厳しく接する。

<父親>・ 長距離トラックの運転手

(43歳) で自宅を空けることが多い。

・ 子どもたちのことは祖母任せ。

<母親>・ A男が4歳の時に離婚し

(39歳) 現在は所在不明。

<長兄>・ 高校2年。

(17歳) ・ 兄弟姉妹への心配りが細やか。

<次兄>・ 中学3年。

(15歳) ・ 学校内外で問題行動を繰り返している。

<妹> ・ 小学5年

(11歳) ・ 学校を休みがち。

#### (2) A男の性格行動

- ・ 粗暴な言動が目立つが、学級のなかは人気者である。
- ・ 学習態度にむらがあり、集中して学習を続けられない。
- ・ 係や委員会活動は他人任せで、協力して取り組むことが少ない。
- ・ 運動は好み、部活動（野球部）には積極的に参加している。
- ・ 交友範囲が広く、帰宅後、複数の